

(別紙様式)

令和 7 年度「いわて中山間賞」候補調書

集落等の名称		おおたちく												
		太田地区												
集落等の状況	市町村	二戸市												
	代表者 氏名・住所	氏 名	たやま りょうじ 田山 亮二			住所 二戸市浄法寺町中前田 68								
	構成員 (1)		世帯数	構成人数	うち 農業者	うち 非農業者	うち 女性	うち 45 歳未満						
		地域全体	120 戸	256 人	102 人	154 人	121 人	55 人						
			うち 中山間地域等 直接支払制度 の協定集落	88 戸	90 人 (5 組織)	84 人 (5 組織)	2 人	0 人	4 人					
	農用地の 作付け状況 (2)	計	水稻	葉たばこ	W C S	飼料用米	その他							
14, 761a		6, 496a	3, 406a	982a	874a	3, 003a								
集落等の概況等	集落等の概況 (3)	太田地区は、二戸市南西に位置する浄法寺地区にあり、山の恵みが豊富で中腹には岩誦坊と呼ばれる湧き水が流れる稲庭岳があるなど自然豊かな地域である。葉たばこを中心とした農家が多く、農地は稲庭岳の麓に傾斜地が広がっているが、区画整理により農道等が整備され農作業の効率化が図られている。 また、葉たばこ生産の減反傾向がある中で、農地を保全し新たな活用方法について若手農家を中心とした会合を密に開催し、地域のビジョンづくりを行い、稲庭岳の資源に負担をかけない農業を展開するとともに農地集積にも積極的に取り組んでいる。												
	集落等の組織 体制図 (4)	太田地区 太田地区環境保全組合 <table border="1" style="margin: 5px auto;"> <tr> <td>代表 1 人</td> <td>書記 1 人</td> </tr> <tr> <td>副代表 2 人</td> <td>会計 1 人</td> </tr> <tr> <td>役員 15 人</td> <td>監査役 2 人</td> </tr> </table> 連携 協力 ↔ 【構成員として参加している】 環境保全組合青年部 太田婦人会 消防団第 12 分団第 1 部 岩誦坊クラブ 太田老人クラブ							代表 1 人	書記 1 人	副代表 2 人	会計 1 人	役員 15 人	監査役 2 人
	代表 1 人	書記 1 人												
副代表 2 人	会計 1 人													
役員 15 人	監査役 2 人													
将来の 目指す姿 (5)	将来にわたり農業生産活動等が可能となるような実施体制を構築するため、引き続き地区内で意見交換を行うとともに、就労支援団体（NPO 法人浄法寺サポートセンター）などの地区外の団体等と連携しながら地域課題の解決に取り組む。地域計画の策定の際には、青年部が中心となり、地区の農業者の意見を													

		まとめ、10年後の農地を守るための基本構想の作成に尽力した。その結果、太田地区では担い手への農地の集積が進み、10年後も有効に農地が活用されることを目指す。
--	--	--

集落等の概況等	地域の活性化の取組内容 (6)	1 地域の活動のきっかけ 少子高齢化が進んでいる地域ではあるが、基幹作業で葉たばこ生産の収入が安定していることにより農地は活用されてきた。しかし、昨今、喫煙者が減少傾向であることに伴い販売先の確保を担保することが難しくなることが予測されることから、将来の農地維持に向け中山間地域等直接支払制度を活用するため、第4期から太田地区環境保全組合を締結した。 中山間地域等直接支払制度を活用することにより、地域一体となって農地を維持していく機運が高まり、役員を中心に事業を実施してきたが、役員の高齢化により事業実施主体になることが難しいことから、地域の若手農家を中心とした「太田地区環境保全組合青年部」（現在9名、平均40歳）を令和元年に設立した。以降、青年部が中心となり事業の運用、地区内の認定農業者等への農地集積を行っている。 2 地域の活性化に向けた取組活動の特徴と成果 ①耕畜連携事業 太田地区は圃場整備された水田による米と繁殖牛の産地でありながら、以前は地域内で連携せず、WC S用稲や稲わらなどを地域外から購入し、本来地域で生まれる仕事とお金を外部に流出させている状況にあった。そこで中山間地域等直接支払制度を活用し、H30年度にWC S用コンバイン1台を導入し、地区内の水田農家9戸で51aのWC S用稲を作付け、畜産農家1戸への供給を開始した。現在は、作付け面積982aまで増加し給餌農家数が5戸に増えた。この取組により、地域内の連携を強化し、水田所有者の所得を向上させるとともに、畜産農家の飼料費のコストの減少につなげることができた。今後についても、水田所有者の所得安定と飼料自給率向上に向けて進めていく。 ②輪作体系試験及び耕作放棄の防止に向けた活動 太田地区では、国の転作支援に柔軟に対応し未来を見据えた活動がより重要になってくると考えている。また、今後、農業従事者の高齢化や鳥獣被害に伴う耕作放棄地の増加が危惧されることから、少ない面積で所得を向上させることを基本としながら、農地の維持に向け、地区一帯となって農業生産を続けていく必要があると考えている。 鳥獣被害対策として、地区内では現在、熊被害がほとんどだが、温暖化などにより鹿や猪の増加が見込まれることから、二戸市の猟友会を講師として招き講演会の開催や狩猟免許習得の補助等を実施し、マタギの育成を行っている。 また、当地域は、葉たばこが主産業であることから、輪作体系を確立し、連作障害による減収や品質低下を避け、所得向上につなげていきたいと考えている。そのため、令和4年度に中山間直接支払事業により汎用コンバイン1台を導入し、葉たばこの輪作として国で定める戦略作物である大豆や小麦や地域に根ざした作物（雑穀等）の面積拡大や安定生産に向けた試験を地域住民で話し合い、考えながら行っている。今後は、専門的な知識を持つ方からの意見も取り入れながら進めていく予定である。
---------	--------------------	---

また、新たな地域のブランドを確立するため、東北農業研究センターの協力の下 99%輸入に頼っている子実用トウモロコシの生産から地域内の畜産農家への供給も実施している。今後も、地域の農業生産を維持し、耕作放棄地を出さないよう地区一帯となって取り組んでいく。

③主食用米の販売強化支援

太田地区は、水田で作付されている品目として主食用米が一番多いことから、主食用米の販売強化が喫緊の課題となっている。市外業者への流通のほか、直接販売する体制の構築（品質及び付加価値の向上）により農家個人の所得を向上させるため、令和6年度に中山間地域等直接支払事業を活用し、精米機及び色彩選別機を導入し、地区全体の販売力強化を図った。今後は整備された機械の周知を行い、さらに稼働率を向上させ販売力を強化し地域内循環を進めていきたい。

④6次産業化事業

太田地区環境保全組合では令和3年度から、農地の維持対策として「みどりの食料システム戦略（2050年までに有機農業25%）」などの国の動向を鑑み、外部講師を招いて研修会を行った。また、太田地区は水と緑が豊富な地域であり、自然と共存するイメージを消費者にPR出来ることが強みであることから、新たに地区内の若手農家である田口農園と協力し無農薬での大豆栽培について理解を深めてきた。

また、当地区は豪雪地帯のため冬の所得確保が課題となっていることから、太田地区活性化センターを加工商品開発の拠点（シェアキッチン）とする予定である。

地区で生産した無農薬の大豆を使った豆腐作り講習会を婦人会の協力を得ながら開催し、販路拡大と冬の所得を確保するための取組を進めるとともに、太田地区の農閑期の交流の場を創出した。また、耕作放棄地対策としてサツマイモの栽培も行っており、干し芋に加工して二戸市浄法寺地域のゆるキャラである「浄法寺のねこ」とコラボした商品を地域内の商店等へ販売し所得向上にもつなげている。

⑤維持管理作業の共同化

畦畔や法面等の維持管理作業について、複数名で作業した日に中山間地域等直接支払交付金を活用し日当を支出することにより作業の効率化と安全確保及び、交流の場を設けている。また、今では稲庭岳の自然に魅了された地域おこし協力隊OB等も草刈り作業などに協力をいただいている。今後も豊かな自然環境をPRし、地域外の人を巻き込む活動を行いながら地域の景観、農地維持に取り組んでいく。

3 今後の課題と将来展望

今後においても、少子高齢化に伴う耕作放棄地の増加や狩猟者不足などによる鳥獣被害が増加することが予測される。太田地区の農業を守るとは農村を守ることにつながることから、地域内の農業者はもちろん、就労支援事業者等の外部との連携を強化し、足下にある地域の資源（米、さつまいも、短角牛、シャインマスカット等）を発掘・磨きあげ・商品開発を行い、地域内で仕事をつくり、外部に発信するSNSの活用やHPを整えるとともに、農地を保全し、商品を販売していく団体を立ち上げる準備を進めていきたい。

集落の活動写真 (7)



(地区の婦人会による豆腐づくり講習会)



(導入した精米機と色彩選別機の様子)



(地域計画策定に係る青年部打合せの様子)



(外部講師を招いた「みどりの食料システム戦略」研修会)

令和7年度「いわて中山間賞」

太田地区（二戸市）

太田地区構成員

		世帯数	構成人数				
				うち 農業者	うち 非農業者	うち 女性	うち 45歳未満
地域全体		120戸	256人	102人	154人	121人	55人
	うち 中山間地域等直接支払制 度の協定集落	88戸	90人 (5組織)	84人 (5組織)	2人	0人	4人



農用地の作付け状況

作物名	作付面積（㎡）
主食用水稻 集計	649,605
葉たばこ	340,690
自己保全管理 集計	183,017
WC S用稲 集計	98,222
飼料用米 集計	87,499
そば 集計	36,149
子実用とうもろこし 集計	12,506
きび 集計	11,869
大豆 集計	9,145
葉たばこ 集計	8,129
その他野菜 集計	7,701
農業生産施設用地 集計	7,689
小麦 集計	7,246
調整水田 集計	5,058
モロコシ 集計	2,860
その他青刈り稲 集計	2,556
なたね（油糧用） 集計	2,074
かぼちゃ 集計	1,767
トマト 集計	1,440
養魚水田 集計	652
クレソン 集計	237
計	1,476,111



葉たばこ



主食用米

太田地区の概況



稲庭岳 + 岩誦坊の水 + 葉たばこ

集落等の組織体制図

太田地区

太田地区環境保全組合

代表 1人

書記 1人

副代表 2人

会計 1人

役員 15人

監査役 2人

連携・協力



【構成員として参加している】

環境保全組合青年部

太田婦人会

消防団第12分団第1部

岩誦坊クラブ

太田老人クラブ

地域活動のきっかけ

太田地区の基幹産業は葉たばこ



喫煙者の減少傾向に伴い耕作放棄地の増加??



第4期から中山間地域等直接支払制度を活用（太田地区環境保全組合設立）



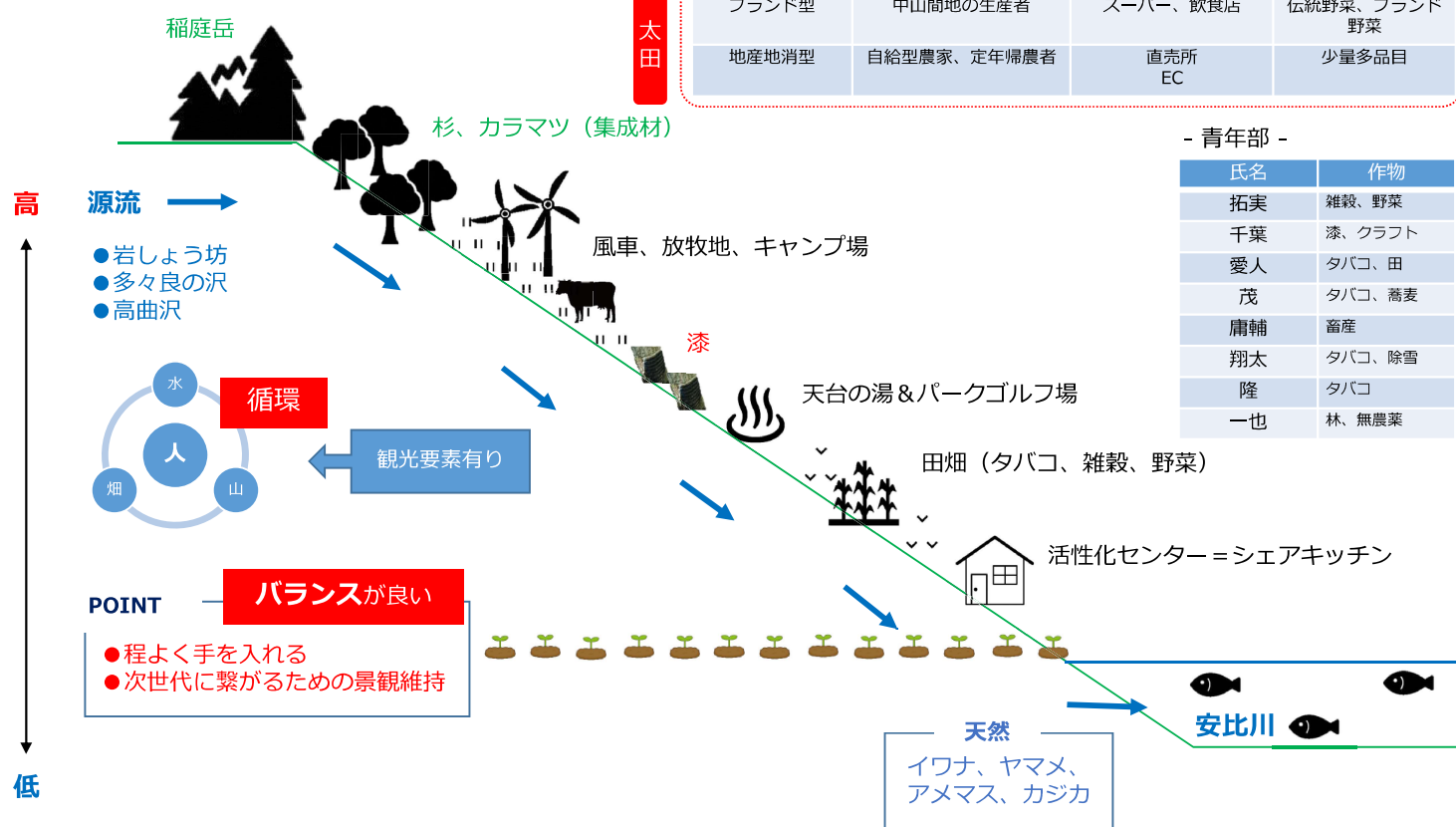
農地維持の機運が高まったが、役員の高齢化に伴い事業実施主体になることが難しい



令和元年より地域の若手農家を中心とした「太田地区環境保全組合青年部」を設立
（現在9名、平均40歳）

事業の運用、地区内の認定農業者等への農地集積が進んでいる

- 現状 -



① 耕畜連携事業



- ・ H30年度 WCS用コンバイン 1 台購入
- ・ 地区内水田農家 9 戸、給餌農家 5 戸

水田所有者の所得安定と飼料自給率向上

② 輪作体系試験及び耕作放棄地の防止に向けた活動



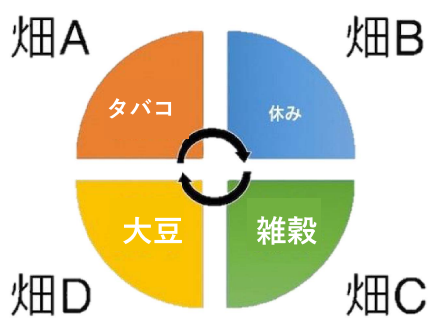
R 3.6.5 鳥獣被害対策講演会



R 4.12.4 狩猟免許予備講習会へ参加

② 輪作体系試験及び耕作放棄地の防止に向けた活動

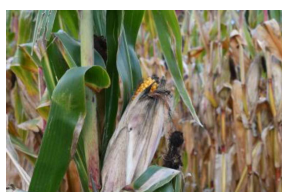
輪作体系（目指す所）



国の戦略作物である小麦の収穫の様子



大豆



子実用トウモロコシ

③ 主食用米の販売強化支援



全国でも珍しいコイン色選機



R7.2.12 コイン精米機、コイン色選機の落成式

機械の導入を住民へ周知

④ 6次産業化事業（大豆）



「みどりの食料システム戦略」
の勉強会
(R7.9.11)



無農薬での大豆栽培
(R3年度から)

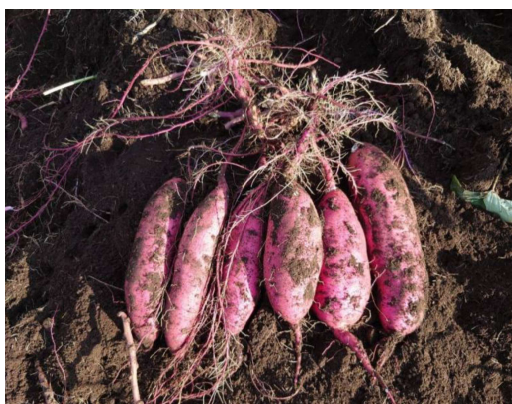


豆腐づくり講習会
(R4.2.19)

田口農園
— Vegetable Garden Taguchi

太田地区活性化センターを加工品開発の拠点へ

④ 6次産業化事業（さつまいも）



+



→



たばこ廃作地でのさつまいもづくり

浄法寺地域のゆるキャラ
「浄法寺のねこ」

加工品の開発

⑤ 維持管理作業の共同化



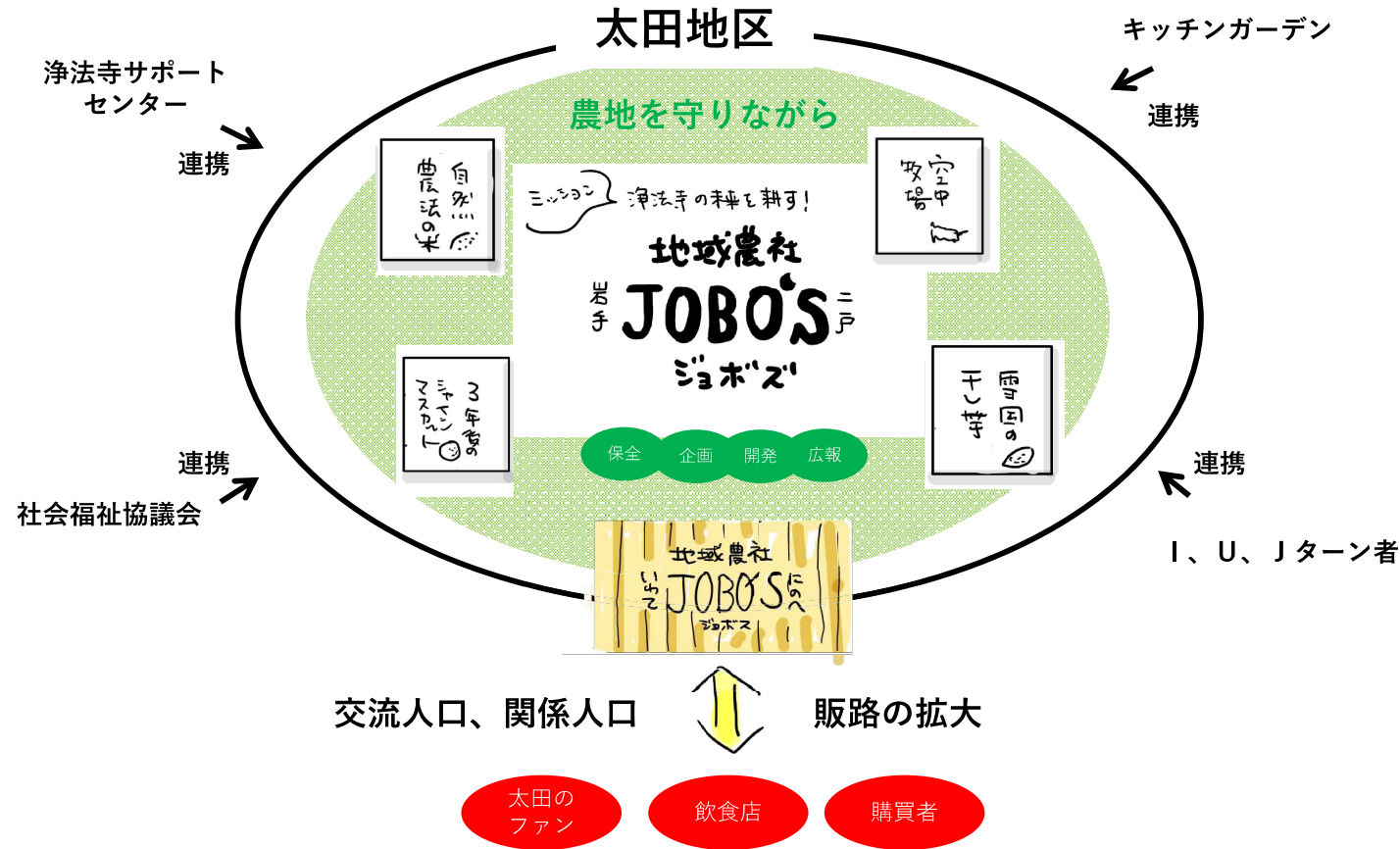
消防団による農地の点検等



太田地区住民と地域おこし協力隊OB等

将来の目指す姿

太田地区



第3期 太田地区環境保全組合の取組みの方向性について

現状と課題

- ・少子高齢化
- ・耕作放棄地増加
- ・鳥獣被害増加
- ・独居老人 など・・・

国の方向性

- ・みどりの総合戦略
- ・スマート農業
- ・交流人口、関係人口の拡大

農業振興 × 農村振興

⇒ 農業を守ることが農村を守ることにつながる
※具体的に何を優先にするべきか

① 農地維持・環境保全



② 商品開発

